

情報報

No.561

島根県教職員協議会
〒693-0011
出雲市大津町2214
Tel 0853(22)7762
Fax0853(22)7762
代表者 安達利幸
編集人 奥井克己

E-mail
office@kyougikai.org
http://
www.kyougikai.org

給与カット 1年間継続 ～県教委提示～

一月一六日(木)、島根県教育委員会は島教協に対して、提示を行った。内容は、「給与カットの継続」である。以下は、一月二〇日(月)定例記者会で澄田知事が給与カットについて述べたコメントである。

「中期財政改革基本方針、これは平成一六年度に策定したわけであるが、この取り組みの結果、収支不足というのは長期的には徐々に改善、縮小していく見込みとなっていたが、本年七月に決定された骨太の方針2006の影響によって、地方交付税の見込みは下方修正をせざるを得なくなった、収支不足は拡大する見込みとなったわけである。加えて新型交付税の導入による影響なども予想され、収支改善への道筋というのは極めて困難なものにならざるを得ないと考えている。九月に発表した中期財政見直しにおいても、現状のままでは平成二一年に基金が枯渇し、財政再建団体に転落する危機的状况に立ち至っている。本来ならば新たな財政再建計画を立てて財政全般をこれまで以上に厳しく見直す中で職員の給与カットについても判断したかったが、現下の状況では一刻たりとも立ちどまることができないと考え、当面一年間、現行の給与カットを継続するということを、まさに断腸の思いで申し入れたものである。」

以上のような県財政の状況から今回の給与カットについての提示であった。島教協は以前からの給与カットについて、教育水準を下げないことを前提にぎりぎりの受け入れ判断をしてきた。しかし、今回の提示については、地方交付税に大きく左右される県財政として、先のまったく見えない状況にあり、県として今後どのように収支不足を縮小していくのか、また、職員の給与カットは本当に一年間のみの継続なのかを、県に対して、きちんと説明責任を果たすことを強く要望していく考えである。

人事異動に伴う相談を随時受け付けています。

- ・今後の異動計画をどのようにしていいのかわかっている
 - ・調書の書き方で、困っている
- などなど、お気軽にご相談下さい！

島教協異動調書
提出締切 12/11(月)

委員長・書記長合同会議開催

今年度も市町村教育委員会へ

人事異動申し入れを実施

一月二三日(土)、島教協は、各支部・単組の委員長と書記長との合同会議を開催した。

今年度の人事異動ルールについて事務局から説明を行い、ルールの共通理解をした後、会員の異動調書記入・提出の方法等を確認した。今年度はルールの変更点は、①小学校・中学校・高等学校(今年度追加)における一貫教育に質するため、教育職員の交流を行う。②栄養教諭を採用し、市町村学校栄養職員及び事務職員人事異動方針を準用する。以上二点である。また、各支部・単組において、市町村教育委員会へ、適正な人事異動が行われるよう「第一期人事異動に伴う申し入れ」を行うことを決定し、順次実施することとした。

また、機関紙前号でも報告した通り、県教委要望日が延期になり、要望項目の再検討を行った。県の厳しい財政状況の中、給与カットの一年間の継続等について、島教協としての意見表明をどのようにしていくかなど活発な意見交換が交わされた。これを受け、新たな要望書を作成・提出することとしている。

「斐川町教育を語る会」開催 斐川町教職員組合



に非常に厳しい状況である。現場の先生方には不自由な面があると思うが、できるだけ期待に添えるよう頑張るつもりである。現場の声を届けてほしい」と挨拶があった。

一月二二日(水)、斐川町教職員組合(玉木明子(庄原小)委員長)は、斐川の教育を語る会を開催した。来賓には、古川斐川町教育長と三宅学校教育課長が出席し、町内会員と懇談した。玉木委員長は、「学校現場は一生懸命教育に携わっているが、昨今の教育問題等により、多忙を極めている。しかし、斐川町の子供たちのために、学校現場と行政がともに知恵を出し合い、よりよい教育環境になるようにしていきたい。」と挨拶した。古川教育長からは、「町の財政は、県同様

出雲市教職員協議会 出雲市教育委員会へ対して要望活動実施 「子供たちのためになる施策を！」



黒目出雲市教育長から要望回答書を受け取る手銭委員長

「子供たちのためになる施策を！」

出雲市教職員協議会は、一月一五日(水)、出雲市教育委員会教育長室にて、要望活動を行った。黒目俊策教育長はじめ、次長・課長級の計5名の教育委員会側に対して、出教協からは、手銭俊夫委員長(神戸川小)をはじめ、七名の執行委員が交渉を行った。手銭執行委員長は、「本団体や個人の利益に固執せず、出雲市の子供たちにより質の高い教育が行えるよう、会員総意の意見として今回の要望

書を出した。幾つか要望させてもらうが、聞き入れていただき、出雲市全ての子供たちがよりよい教育が受けられるよう、よろしくお願したい。」と挨拶した。教育長からは、「日頃より子供たちの教育に、熱心に取り組んでいただき感謝している。財政が非常に厳しい中であり、さまざまな施策を全て実施することは難しくなってきた。しかし、子供たちや教職員の皆様にとってよりよい学校現場になるよう最善を尽くすつもりである。」と挨拶があった。

また、同日の夕刻より、出雲市教職員協議会は、執行委員会も開催した。出雲市教育委員会要望の詳細報告や来年度の役員選考方法等の検討を行った。



同日 執行委員会も開催された

日本教育文化研究所主催 「教育シンポジウム九州」 参加報告



パネラーディスカッションの様子
一月二五日(土)、日本教育文化研究所は、福岡県福岡市において、「尊敬され、信頼される教師」をテーマに、「教育シンポジウム九州」を開催した。
始めに、金井肇所長より「説得力をもって児童生徒が心から納得し変化をもたらすことができる教師、また、専門的能力をもって指導することができる教師が尊敬され、信頼される教師ある。」と基調提案をした後、学校における権威が何故失われてきたのか、その回復には何が必要かを考えるためのパネルディスカッションが行われた。
パネラーディスカッションは、高橋史朗氏(明星大学教授)のコーディネートにより進行した。パネラーからは、「学校・教師が、ぶれない理念を持つこと。」「親の教育が必要。特に母親の存在価値は大きく、学校がいかに親との関わりを持つことができるかが、大切になってきている。」「教師が親からの信頼を得ることが、子供たちを正しい道に進ませることができ。」「など様々な意見が交わされた。コーディネーターの高橋史朗氏は、「全ての先生に『脳科学』を勉強して欲しい。親と学校・教師が日本を帰る！」とまとめ、盛会のうちに終了した。

島教協からは、安達利幸会長を始め、八名の会員が参加した。参加した会員からは、「島根県にいては、聞けない話の内容だった。親の教育については、難しい分野ではあるが、考えて行かなければならない時期になってきている。具体的な方法を検証していきたい。」「教師自らが、親の信頼を得る事が大切であることを再認識した。明日からの学校現場に活かしていきたい。」などの感想が寄せられた。



島教協参加会員